

日米エアフォース友好協会創立30周年記念に寄せて



統合幕僚長 空将 内倉 浩昭

日米エアフォース友好協会（JAAGA）の創立30周年に際し、心よりお祝い申し上げます。井筒会長をはじめ歴代会長の皆様、歴代第5空軍司令官の皆様、並びに貴協会の活動に携わってこられた全ての会員の皆様に、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。創立以来、脈々と受け継がれてきた熱意と創意工夫あふれる様々な活動を通じて、貴協会は航空自衛隊と米空軍双方にとって欠くことのできない存在であることを示してされました。

私自身、航空総隊司令官、航空幕僚長、そして統合幕僚長としての歩みの中で、日米同盟の意義と重みを幾度となく実感してまいりました。そのたびに、両国の信頼を静かに支え続けてこられた貴協会の存在に励まされ、勇気づけられてきたことを忘れることはできません。この機会に、改めて心から御礼申し上げます。

今日、グローバルなパワーバランスが大きく変化し、新たな危機の時代に突入しつつある安全保障環境の下、いずれの国も自国のみで平和と安全を守ることとは困難となっています。我が国の防衛はもとより、インド太平洋地域の平和と安定のためにも、日米同盟の抑止力・対処力を一層高めることが急務です。さらに、統合運用が基本となった現在、各領域を横断する高度な連携に加え、AIを活用した迅速かつ的確な意思決定も求められる時代となりました。ここで、私が最も強調したいことを申し上げます。

日米共同運用、そして統合運用は、各自衛隊と米軍各軍種が有する高度な能力と、相互運用性・相互互換性・相互補完性という堅固な紐帯によって支えら

れています。その能力を維持・向上させるためには、不断の訓練・演習が欠かせません。

しかし、真に強固な紐帯とは、単に装備やシステムをつなぐことだけではありません。それを運用し整備する人と人との心のつながりであり、各幕僚長から現場の隊員に至るまで築かれる友情と信頼です。そして、その輪は現役だけでなく、退官・退役された方々や御家族にも広がっています。世代を超えて友情を育み、それを未来へつないでいくことこそが、日米同盟を支える揺るぎない力になると私は信じています。

貴協会は、このかけがえのない人的基盤を築き、育み、未来へつないで来られました。その歩みは、航空自衛隊と米空軍との紐帯を支える大きな力であり、その役割はこれからの時代にこそ一層重要になるでしょう。

創立30周年という節目を迎えられた貴協会が、これからも航空自衛隊と米空軍との信頼強化のための取り組みを通じて日米同盟の進化に寄与されることを期待いたしますとともに、貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたします。